

○沖田千代* 児玉満** 松崎浩士**

(*純真女子短大, **東和大)

目的 思春期青少年における食生活は親の保護管理下から自立し、特に昼食等は各生徒で選択し摂食するケースが増す。しかし、一方、健康を意識した青少年の食教育は中学・高校では、一貫したものはない。若年からの生活習慣病の予防等が叫ばれている中、保護者だけでなく、青少年自体への食教育に打開策の検討が望まれる。

今回、青少年への食教育の一方策として、中高一貫学食における食事選択のためのマルチメディア教材を作成した。バージョンアップの中途ではあるものの、簡単な試行も試みたので、その結果も併せて報告する。

方法 使用パーソナルコンピュータはApple社のPowerMacintosh。素材データの作成は栄養計算、料理写真、音声、文字入力、統合に各々対応するソフトを使用した。教材の使用環境はApple社のPowerMacintoshを使用した。

結果 試行した学食はセルフメニュー方式で定食、小鉢、一品料理等から好きな料理を選択摂食するしくみになっている。マルチメディア教材は実際の食の場で使用可能なように学食にパソコンを設置し、食教育がその場で実践に結び付くように設定した。その結果、生徒の動きの中に、より個別への取り組みを要求する意見が出るなど、食事選択に興味を持つ前向きな意見がでた。食教育教材のマルチメディア性が生徒に無意識に食を考えるきっかけを与えたと考えられた。